



道通真境と環境危機の克服

大巡思想の流行的共同体主義を通じた環境危機克服方策に関する学術的探究

2025年6月22

日 発表者：

〇〇〇

〇〇大学 〇〇学科

目次



- 1 環境危機の背景
- 2 大巡思想の流行的共同体主義の概念
- 3 西欧の共同体主義の問題点
- 4 道通真境の代案の提示
- 5 実際の事例分析
- 6 結論および示唆点

環境危機の背景

 環境危機のイメージ

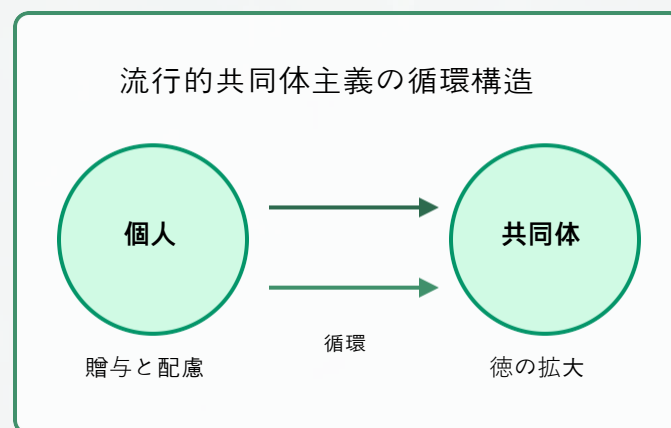


- 今日、人類は深刻な環境危機に直面しており、これは持続的な経済発展の過程で予期せぬ結果として現れている。
- 西欧の共同体主義は、本来、経済環境の改善と共同体の実現を目標としたが、循環論的観点の欠如により環境危機を招来することとなった。
- 西欧の資本主義体制は物質的発展には成功したが、自然環境への配慮が不足し、結果的に環境の破壊へとつながった。
- 人類共同体は経済的豊かさを享受するに至ったが、同時に共同体の絶滅の危機に直面するという矛盾した状況に置かれることとなった。
- 現代社会は環境危機に対する効果的な対応を見出せぬまま、持続可能な未来への確信もなく今日を生きている。

大巡思想の流行的共同体主義の概念

- 流行的(流行的)共同体主義は大巡思想の核心概念であり、経済的循環の原理を重視し、共同体と個人の均衡を追求する。
- 大巡思想において財貨は循環の結果であるため、循環を妨げない限り、共同体と財貨に対する贈与の欲望は非常に強調される。
- 共同体の利益とともに共同体の正義を優先し、個人の財産を共同の目的に用いる博愛主義的な財貨観を認める。
- 西欧の共同体主義とは異なり、大巡思想の財貨観は循環を前提とする限り、より流行志向的であり、自然環境との調和を追求する。

🖼️ 循環と調和のイメージ



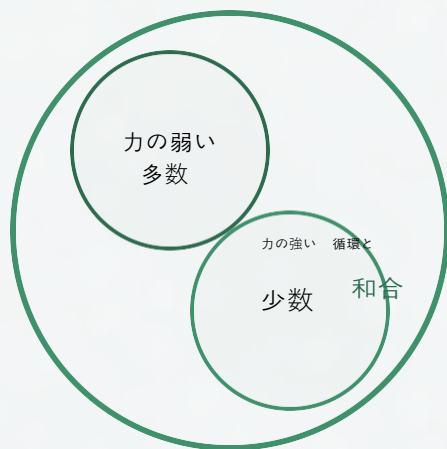
西欧の共同体主義 の問題点

 不均衡のイメージ



- 西欧の共同体主義は、循環性の欠如により経済的均衡を成し得ず、環境危機を加速させた。
- 共同体の卓越性を過度に強調し、公益の基盤となる個人の価値を無視するという構造的問題点が発生した。
- 経済環境の改善に寄与したが、循環論的観点の欠如により、自然環境との調和よりも物質的発展のみに偏った。
- 市場制度内の卓越性を否定し、政治的代案を口実とする共同体主義的アプローチは、かえって経済環境を疲弊させた。
- 共同体のみのためという名分で環境との関係性を看過することにより、人類は経済的豊かさの中でも生態的危機に直面することとなった。

道通真境：新たな代案の提示



- 道通真境は、二つ以上の体系が互いに流行的に作用する循環を意味し、力の強い者と力の弱い者の和合が成された世界を志向する。
- 功利主義が力の強い少数の選択を優先するのとは異なり、道通真境は力の弱い多数者に対する配慮倫理を重視する。
- 既存の共同体主義とは異なり、流行的共同体主義は双方の要請を同時に満たし、自然環境との調和を追求する。
- 環境危機の克服のために循環性の原理を回復し、経済活動の主体たちが相互に配慮する構造を形成する。
- 道通真境は、人類共同体の持続可能性を担保する新たなパラダイムであり、環境危機克服の代案的思想体系を提示する。



事例分析



- **自発的な贈与と模範：上帝が財産を売って乞食たちに分け与える模範を示すことにより、一進会の会員たちが略奪を中止し、自らの財産で共同体のために行動するようになった**

「彼らをして今後、甲午(甲午)のような略奪の民弊をなくし、彼ら各自が自己の財産を使うようにさせよう。わたしがまず模範を作らねばならぬ」-『典經』教運1章15節

- **共同体関係の回復：申京鉉の事例を通じて、共同体内の不和を和解へと転換し、是非が位置ではなく行動にあることを示す**

「すべての事における是非はみなわたしにあるのであって、位置によってあるのではない。今より後は万事をよく考えて行うべし。」-『典經』教法3章18節

- **言葉と行動の流行性：個人の言葉と行動が自らへと循環して立ち返る原理を説明**

「悪を將に除き去らんとすれば草に非ざるはなく、好を取り看来たれば総て是れ花なり(惡將除去無非草 好取看來總是花)。言葉は心の叫びであり、行いは心の跡である。他人をよく言えば徳となって...わが身に至るのである」-『典經』教法1章11節



結論および示唆点



- 大巡思想の流行的共同体主義は、西欧の共同体主義の限界を克服する代案的思想として、環境危機の解決に寄与しうる。
- 道通真境は、力の弱い多数と力の強い少数の和合を志向し、共同体の循環的構造を通じて環境問題を根本的に解決する方向を提示する。
- 西欧の共同体主義が招来した環境危機を解決するためには、循環的な財貨観と流行性に基づく経済観が必要である。
- 財貨の贈与と循環が強調される大巡思想は、現代の資本主義社会において、個人の利己心と生態系の破壊を超える倫理的基盤を提供する。
- 今後の課題としては、道通真境の現代的適用方策と、グローバルな環境危機に対応する共同体モデルの開発が必要であり、これを通じて持続可能な未来のための代案を提示しうるであろう。

